

花粉症の症状は、「鼻水」、「くしゃみ」、「鼻づまり」が3大主徴です。目にもかゆみや異物感が生じます。

花粉症の治療は、「薬物療法」、「アレルギー免疫療法」、「手術療法」の3つがあります。また、症状の原因となる花粉アレルゲンを回避する環境整備も重要です。

薬物療法では鼻水を抑える抗ヒスタミン薬の飲み薬や、鼻の炎症を抑える点鼻ステロイド薬、鼻づまりを改善する作用があるロイコトリエン受容体拮抗薬などが用いられます。抗ヒスタミン薬は眠気などの副作用がありますが、近年は眠気の出にくい薬もあります。

目の症状には、花粉によって生じる各種の化学伝達物質（ケミカルメディエーター）遊離抑制薬や、抗ヒスタミン薬の点眼薬が用いられます。花粉飛散量が増えて症状が悪化してきたら、目のアレルギー性炎症に対して点眼ステロイド薬を用いる場合もあります。

アレルギー免疫療法は、原因となるアレルゲンを投与して、体のアレルギー反応を弱める治療です。注射製剤と舌下錠があり、舌下錠ではスギ花粉とダニが保険適用になっています。治療は数年以上必要であり、根気のいる治療です。

手術療法は、鼻の粘膜をレーザーで凝固する下鼻甲介粘膜焼灼術があります。薬物療法でも症状が抑えられない場合に考慮される治療です。

花粉シーズンは症状が軽いうちに薬を使用することで、花粉飛散量が多くなった時期でもコントロールしやすいので、早めに治療を開始することをおすすめします。

